

厚生労働科学研究費補助金（がん対策推進総合研究事業）
（分担研究報告書）

全国がん登録と連携した臓器がん登録による大規模コホート研究の推進及び高質診療データベースの為のNCD長期予後入力システムの構築に関する研究

（研究分担者 袴田健一・弘前大学大学院消化器外科学・教授）

研究要旨

院内・全国がん登録は悉皆性と予後情報で優れ、一方、臓器がん登録は詳細情報に優れるものの悉皆性と予後情報の取得が課題である。今後、詳悉ながん登録データベースの構築を図るためには専門医制度・NCDとの連携、予後情報の付加のためには院内・全国がん登録との連携が望まれる。

A. 研究目的

全国がん登録と臓器がん登録の連携による高品質データベースの構築、ならびに臓器がん登録の悉皆性向上を図る方略として、専門医制度との連携の可能性について検討する。

B. 研究方法

外科系専門医制度と連携したNCD症例登録の運用実態を調査するとともに、NCD登録データの地域毎の悉皆性について検証する。また、全国がん登録と臓器がん登録、NCDのそれぞれの登録業務の実態について調査し、業務連関やデータベース相互の補完・連携の可能性について検討する。

（倫理面への配慮）

すでに公表されている匿名化情報を用いる。開示すべき利益相反なし。

C. 研究結果

NCD登録データは全手術の97%をカバーするとともに二次医療圏別疾患発生数を反映し、データ登録を専門医制度と連携させる方略の有効性が確認された。

院内・全国がん登録は医師の労務負担を回避した登録システムが導入され、頭名データの突合により重複と漏れを回避した悉皆性と精度の高いデータベースが構築されつつある。

一方、NCD登録と臓器がん登録の入力作業は基本的に同様の労務だが、医師の労務負担が大きく、インセンティブの高さが両者の登録カバー率の差に影響している。専門医制度と連携した乳がん登録でカバー率は70%と最も高く、他がんへの応用が期待された。

D. 考察

院内・全国がん登録は悉皆性と予後情報で優れ、今後マイナンバーの導入により精度と同時性の一層の向上が期待される。一方、臓器がん登録は詳細情報に優れるものの悉皆性と予後情報の取得が課題であり、悉皆性に関しては専門医制度・NCDとの連携、予後情報については院内・全国がん登録との連携が望まれる。

E. 結論

悉皆性と制度の高質がん登録データベースの構築に、専門医制度との連携は一つの有効な方略と考えられた。

F. 健康危険情報

G. 研究発表

1. 論文発表

- Significance of preoperative fluorodeoxyglucose-positron emission tomography in prediction of tumor recurrence after liver transplantation for hepatocellular carcinoma patients: A Japanese multicenter study. J Hepatobiliary Pancreat Sci. 2016 Nov 2. doi: 10.1002/jhbp.412.

2. 学会発表

- JDDW2016 第16回医療セミナー 「専門医制度におけるサブスペシャリティの取り扱い」 2016/11/5 神戸

H. 知的財産権の出願・登録状況

（予定を含む。）

1. 特許取得

なし

2. 実用新案登録

なし

3. その他

なし